

## ● 肝機能(血液検査)①

### 総ビリルビン<T-Bil>

<p>意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肝臓や胆道に異常があると増加する</li> <li>経過観察や予後判定のほか、黄疸の鑑別に用いられる</li> <li>ビリルビンは直接型ビリルビンと間接型ビリルビンに分けられ、どちらが上昇しているかにより原因疾患が明らかとなる</li> </ul>
<p>基準範囲*</p>	<p>0.2~1.0 mg/dL</p>
<p>異常値で疑う疾患</p>	<p>直接型ビリルビンが優位の場合： 肝炎、肝硬変、閉塞性黄疸（胆石症、胆管癌など）など 間接型ビリルビンが優位の場合 体質性黄疸、溶血性貧血、新生児黄疸など</p>
<p>服薬指導に活かせるポイントなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 新生児の場合は肝機能が未発達のためビリルビンが一時的に上昇し、黄疸を示すことがある</li> <li>❑ AST, ALTの上昇があわせて見られるときは肝障害を、胆道系酵素(γ-GT、ALP)の上昇があわせて見られるときは胆道系障害を疑う</li> <li>❑ 肝代謝薬剤には注意を要する</li> </ul>